

教育委員会だより

社会教育課

学びの場を提供 暮らしや地域を豊かに

皆さんは教育という言葉から何をイメージしますか？ 多くの人が思い浮かべる「学校教育」や、学校以外の社会で行われる「社会教育」などがあります。社会教育の拠点として、戦後に「公民館」が設置されました。公民館では学びの場を提供し、地域を豊かにしていけるようバックアップをしています。今回は、公民館の三つの取り組みを紹介します。

二世交代交流 金子ミステリーツアー

地域交流センター ☎ 34-6320

毎年1月に「金子ミステリーツアー」〜ウォーキング&七草粥〜を実施しています。企画運営は「交流戦隊KANAKO」と金子体育振興会が中心となって進めています。コース・内容は当日まで不明。チーム編成後、スマホの地図アプリに座標を入力し、それぞれの目的地を探しながら進みます。無線機で連絡を取り合いながら、史跡などをめぐり新感覚のウォーキングです。

ゴール後は、老人会女性部と一緒に作る七草粥を全員で美味しくいただきます、みんなで新年を祝います。



アプリに座標を入力している様子

塩田の歴史や文化を後世に

多喜浜公民館 ☎ 45-0014

多喜浜校区では、多喜浜塩田の歴史や文化、「かしょい（加勢する）」の精神を後世に継承しようと「塩田文化バンク」講座を継続的に開催しています。

ミニ塩田施設「ソルティ多喜浜」や「塩の学習館」を活用して、塩づくり体験や、作業道具・古文書・写真などを展示した「多喜浜資料展示室」での学習、多喜浜塩田遺跡と文化財を巡る「塩田ウォーク」に取り組んでいます。また、「ソルティちゃん音頭」「塩田讃歌」の踊り継承にも力を入れています。



多喜浜塩田に関する道具の説明

地域で花いっぱい運動

船木公民館 ☎ 41-6003

船木の象徴である池田池では、7月と12月に、長寿会の皆さんが花壇を丁寧に土作りし、船木小3年生と協力してマリーゴールドやヴィオラを植え、一年中花を咲かせています。また船木中ではボランティアを募集し、約100人で800個のプランターに花を植え、新居浜インターに入る道路沿いに設置しました。有志の皆さんで水やりや草引きを行い、道行く人の目を楽しませています。

地域のひととの共同作業は、子どもたちがいろいろなことを学び、豊かな体験と情操教育の場となっています。



「花いっぱい運動」共同作業

文化振興課

文化芸術の香りを
未来に伝えます

立川銅山師奉納常夜灯が市文化財に指定

9月11日に開催された新居浜市教育委員会定例会で、一宮神社内の「立川銅山師奉納常夜灯」が市の文化財（建造物）に指定されました。市が新たに文化財指定を行うのは平成25年以来7年ぶりで、今回の指定により市文化財の総数は75件になります。

立川銅山の開坑時期についての詳細な歴史資料は残っていませんが、寛永年間（1624年～1644年）から掘られていたと伝えられ、元禄4年（1691年）の別子銅山開坑よりも古いものです。別子銅山が開坑して間もない元禄8年（1695年）には立川銅山・別子銅山両坑内で抜き合い（貫通）事件が起こり、鉱脈の所有をめぐる境界紛争となりましたが、幕府の裁定によって立川銅山側の敗訴となりました。その後経営不振に陥った立川銅山は、寛延2年（1749年）12月に別子銅山に併合されました。

この常夜灯は一宮神社の参道沿い随神門の南側にある東西一対の灯籠

で、高さ約2・5メートルの大きなものです。東側に設置されている一基は、宝永元年（1704年）5月に立川銅山師から奉納されたものです。西側の一基は宝永3年（1706年）正月に奉納されたものです。立川銅山が関与している建造物で市内に現存しているものは数少なく、この常夜灯は別子の山の嶺北立川の地において銅山業が営まれていたことを示す貴重な産業遺産です。あかがねのまち新居浜の歴史を今に伝える文化財として、大切に守っていきましょう。



西側常夜灯
(東面)



東側常夜灯
(西面)

一宮神社

市民の文化芸術活動を応援

文化振興課は、今年開館5周年を迎えたあかがねミュージアムを中心に、子どもから大人まで楽しめるイベントを実施しています。また1千163席の市民文化センター大ホールでは、オーケストラの演奏やバレエ公演なども楽しめます（現在は最大583席に縮小）。

今年は3密回避など外出に制限がかかる中、「新しい生活様式」に沿った文化芸術活動として、インターネットを使った配信が増えてきます。市でも、そのような活動を応援しています（9月号P34参照）。

あかがねミュージアム動画配信サイトに、活動の映像を随時アップしますのでお楽しみに！



配信サイト



令和元年7月に実施した
「瀬戸フィルふれあいコンサート」